

広報 おきたま病院

第10号

平成26年11月

各種
指定等

救命救急センター
地域がん診療連携拠点病院
災害拠点病院

第二種感染症指定医療機関
へき地医療拠点病院
臨床研修指定病院

エイズ治療拠点病院
地域医療支援病院



平成26年8月9日 オープンホスピタル

目次

- p02 平成26年度 第1回「オープンホスピタル」
- p03 平成26年度 災害時医療救護訓練
- p04 シリーズ健康講座・診療科紹介 胃がんについて
- p06 お知らせ
- p08 公立置賜総合病院の医師のご紹介

病院理念

心かよう信頼と安心の病院

運営方針

- 1 患者本位の医療を展開いたします。
- 2 高度・救急医療を提供いたします。
- 3 健全経営の確保に努めます。
- 4 人材を育成いたします。
- 5 地域連携の推進に努めます。
- 6 快適な療養環境を提供いたします。



平成26年度 第1回「オープンホスピタル」を開催しました

8月9日(土)、置賜地域の病院としての「公立置賜総合病院」をもっと知ってもらうこと、また地域における未来の医療を支える人材を確保することを目的に、オープンホスピタル(病院内部の見学会)を昨年に引き続き開催しました。開催して2年目を迎えることとなりましたが、48名の高校生の参加がありました。

当日は、洪間院長からのあいさつ、オリエンテーションの後、5班編成により病院各部門9カ所を見学・体験しました。各スタッフが様々な趣向工夫を凝らし説明にあたりました。

診療部



リハビリテーション部



| | |
|---------|----------------------------------|
| 診療部 | 腹部エコーを用いた模擬診察等 |
| 看護部 | 2人1組になっての血圧測定等 |
| 薬剤部 | 調剤業務・無菌室見学等 |
| 放射線部 | CT・MRI装置の説明等 |
| 検査部・輸血部 | 顕微鏡を使つての血液細胞・細菌等の確認検査、輸血についての説明等 |

| | |
|------------|--------------------|
| リハビリテーション部 | 様々な療法の紹介等 |
| 栄養科 | 調理場見学等 |
| 臨床工学室 | 医療機器の体験等 |
| 事務部 | ホームページの作成、事務部業務説明等 |

見学終了後は、各部門への質問コーナーと題し、高校生の希望職種部門ごとに各スタッフに質問を行い、職業に対する理解を深めてもらいました。解散後も熱心に質問している生徒も見られ関心の高さがうかがえました。

アンケートの結果からは「有意義な時間を過ごせた。」「希望職種について選択の幅が広がった。」等、高く評価する意見が多数ありました。

11月に第2回目の開催を予定しております。来年度以降についても継続して実施していきますので、興味のある高校生の方はぜひご参加ください。



看護スタッフの皆さんに質問
(大盛況!)

平成26年度 公立置賜総合病院 災害時医療救護訓練を実施しました

山形県には、県内7つの「災害拠点病院」があり、災害時における県内の医療活動の拠点とされています。置賜地域では、当院が指定されており、また、DMAT（災害派遣医療チーム）指定医療機関でもあります。当院では、その機能・役割を果たすため、年1回院内にて災害時医療救護訓練を実施しています。

今年度は、10月18日(土)に災害対策本部の設置等の初動訓練から被災地域外病院への搬送（仮想）などの訓練を行いました。

訓練の結果については、当院の防災マニュアルに盛り込み、今後に活かしていきます。

【病院災害対策本部】 情報を管理し、病院全体の指揮をします。



【想定】

平日の午前9時10分に
マグニチュード7.2、最大震度6強の
直下型地震が発生!

【訓練参加者数】

約300名

負傷して来院された患者さんのトリアージ(病状の観察と緊急・優先度の判断)を行います。



トリアージされた患者さんを
該当処置エリアへ搬送します。

トリアージされた患者さんに処置を施します。



大切な人が、みすみす胃がんになってしまいませんか？ ～がん拠点病院・消化器内科医からのメッセージ～



消化器内科 ● 渡辺晋一郎

ご存じですか？胃がんは日本人が毎年最も多くかかってしまうがんです。

一方で胃がんでの死亡者数は年々減少し、いまだ死因の上位を占めていながら、第一位の座はとうの昔に他に譲っています。

これはどういうことか、聡明な方はお気づきでしょう。そうです、世界をリードする日本の内視鏡分野の発展のおかげで、早期に発見され、また治せるがんが増えていくということです。内視鏡技術の進歩はまさに革命的ですが、もう一点見逃していけないのは、世界に誇るX線造影（バリウム）による胃検診システムです。死亡率第一位の座から引きずり下ろした歴史的な主役は、むしろこの検診システムなのです。

ところが時を経て、早期発見、早期治療が可能な世の中になってきたことで、「早期発見、早期治療」イコール『臓器温存』、つまり手術で胃を失うことなくがんを治療できることが期待されるようになってきていると感じます。

胃がんがみつきり、進行がんであり外科的手術が必要であることを告げた時、こんな第一声が…「毎年ちゃんと検診受けていたのに、なんで」

お察しいたします。実はここに本日お伝えしたい私たちの思いが詰まっています。

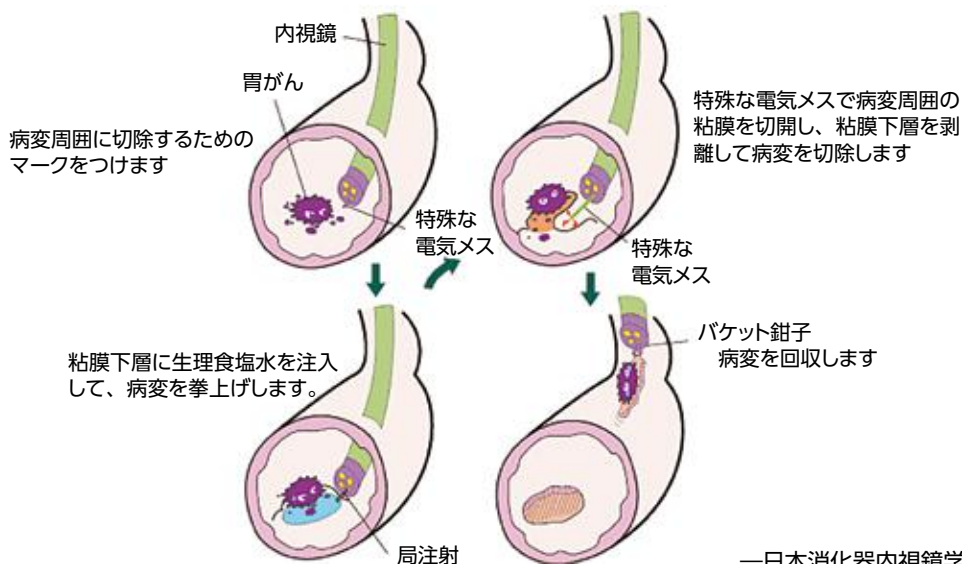
一つは、歴史を支えてきたバリウム検査の早期発見能力の限界について、もう一つは発がん因子についての知識です。

内視鏡で治療できるがんがあります

その前に、胃を切除しない早期治療＝内視鏡治療について解説させてください。胃壁は、胃袋の内側から粘膜、粘膜下層、筋層、漿膜の4層構造からなり、胃がんは粘膜から発生し、徐々に外側に向かって発育していきます。粘膜下層までにとどまっている胃がんを「早期がん」といい、固有筋層より深く浸潤したものを「進行がん」といいます。

内視鏡治療で根治できる胃がんは、がんの深さ（深達

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）



—日本消化器内視鏡学会ホームページより—

度)が浅いこと、特定の細胞の種類であることなど、いくつか条件があります。最近では、「内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)」という方法が普及し、当院でもこの手技を用いて内視鏡治療を行っています。ESDとは、ナイフ状の特殊な電気メスで病変を切開、剥離しがんを摘除する治療法です。ESDは従来の手法と比べて、操作が難しく、より長い時間を要する点が指摘されていますが、根治のためには優れた治療方法です。当院では胃がんに対しては毎年65例ほどESDによる治療を行っており、地域の基幹病院として安心して受けていただける治療を提供できていると自負しています。

この話題、ご存知ですか？

実は、当院でこのESDで治療を行った方について発見された経緯を分析したところ、検診として行われている胃バリウム検査をきっかけにみつかった方は1割程度、しかも実際に治療すべき病変が異常として指摘されたのはさらに半数以下でしかありませんでした。勘違いされないように申し添えますが、胃バリウム検査は死亡率を下げるのに有効だと証明されています。求められている役割はあくまで「進行がんで命を落とす前に発見して救命すること」であり、早期発見、早期治療、臓器温存を検診に期待してしまうと、先の「なんで…」となってしまいます。バリウム検査は、ちゃんと役割を果たしているわけで、罪はないのです。内視鏡に比べて苦しくないから皆が受けてくれる…これは検診として優れています。行政や医療者からの情報発信が足りないのだと感じます。

胃がんを、遠ざけませんか？

二つ目のお伝えしたいこと。がんは、いまや3人にひとり、2人にひとりがかかるとも言われる身近な病気です。たばこが発がん物質というのは常識ですね。愛煙家の方ががん宣告を受けて「検診を受けていたのになんで…」と発言される場面も目にしますが、検診を受けること自体ががんの予防になるわけではないのは明白です。私は医療者として断固禁煙推進派ですが、百歩譲って生き方として喫煙を選択する自由は存在するのでしょうか。しかし、どうして早期発見してくれないんだ(自分は好きに生きるけど早期発見してくれ)、という考え方は身勝手だと感じます。

そんな生き方の自由とは無関係に、判明したら手を打つべき発がん因子があります。国際がん研究機関(世界保健機関=WHOの専門機関)が発がん因子と認定しているヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)です。2013年に『慢性胃炎を来すピロリ菌感染』に対して念願の保険診療が認可され、ようやくわたしたち現場の医師にも胃がんの予防に関われるようになりました。

胃がんのESDは内科医の腕のみせどころ、花形的治療です。ですが、内科医にとってがん発病自体を予防できるのであれば、これに勝る喜びはありません。現在の制度では、内視鏡検査を受けないとピロリ菌の検査ができないという制約こそありますが、これまで病気になった方としかお目にかかれなかった診療の場で、みなさんと違った形でお会いできることを楽しみにしています。みなさんも、ぜひ大切な方にこの情報を教えてあげてください。

ピロリ菌による胃がんが気になる方へ

- ピロリ菌除菌 = 『がんにならない』ではない
- 除菌成功後も数年後遺症が残る(遅れて発病しうる)
- ピロリ菌だけが胃がんの発がん因子ではない

ピロリ菌除菌療法の予備知識(保険診療)

- ピロリ菌検査は、かかりつけ医で受けられる
- ピロリ菌検査は、半年以内の内視鏡実施が条件
- 除菌療法は1週間内服する外来治療
- 除菌療法の成功率は70~80%
- 成功しても「再燃する(生き残りがいる)」ことあり

相談窓口・がん相談支援センターをご利用ください



「相談窓口」は全疾患、また「がん相談支援センター」はがん関連のご案内やご相談をお受けしております。当院受診の有無を問わず、どなたでもご利用いただけます。
(平日8:30~17:00)

相談例

- | | |
|------------------|---------------|
| 1) 病気全般・治療・検査 | 9) 検診 |
| 2) 症状・副作用・後遺症 | 10) セカンドオピニオン |
| 3) 医療費・生活費・社会保障 | 11) 告知 |
| 4) 在宅医療・退院支援 | 12) 不安 |
| 5) 介護・看護・養育(食事等) | 13) 緩和ケア |
| 6) 社会生活(仕事・就労等) | 14) 患者・家族間の関係 |
| 7) 転院・医療機関の紹介 | 15) 医療者との関係 |
| 8) 受診方法・入院 | 16) その他 |

病いの告知
治療の宣告
仕事と心のやり場
家族の不安と葛藤

どの道が正しいのか
正しい答えなんてありません
あなたらしく生きるため
医療者の説明をもとに
あなたと
あなたの大事な人達で
探して行きましょう

そして 最期の時
病院での最期が当たり前?!
でも
住み慣れた所だと願うなら
あなたの思いを大切に
支援してまいります

手作り帽子・未使用タオルありがとうございます

治療後脱毛の方に、回復の願いを込めてタオル帽子をプレゼントさせていただきます。ボランティアとして病院来院者、地域の方々に帽子作成等のご協力をいただき、本当に感謝申し上げます。

未使用タオルも集めております。初めての方も作り方など相談窓口で説明しておりますので、今後ご協力をお願いします。



【病院利用】のご案内 ~かかりつけ医を持ちましょう~

かかりつけ医とは、私たちの身近にいて日常的な診療や健康管理を行ってくれるお医者さんです。かかりつけ医での診療内容を**紹介状**で共有させていただければ、当院での重複検査などをせずに、スムーズに受診をすることができます。

紹介状を持参せずに来院された場合は、「非紹介患者初診加算料」として1620円をご負担いただいております。



医療の
役割分担と
紹介状の持参に
ご協力ください



病院利用について

入院患者さんへの御面会について

患者さんの療養と安静のため、また、安全にお過ごしいただくため、地域の皆様の御理解と御協力をお願いします。

(1) 平日は午後1時～8時、休日は午前11時～午後8時といたします。

※上記の時間以外は御面会できませんので、所定の時間にお越しください。

(2) 次のことに御留意のうえ、御面会ください。

- ① 患者さんの症状により、面会をお断りすることがあります。
- ② 感染防止のため、発熱・咳などのある人、また、お子さん連れでの面会をご遠慮ください。
※身体に抵抗力がなく、感染症に非常にかかりやすい患者さんが大勢おられます。
- ③ 救命救急センター内ICU・HCU病棟の御面会は、午後2時～4時、親族の方のみに制限されます。



「山形県救急電話相談」のご利用：毎日19時～22時の間

●発熱、頭痛、腹痛、めまい、吐き気など急な病気で医療機関を受診するか迷った時は、救急電話相談でアドバイスを受けることができます。

●協力医師の支援体制のもとに専門的な知識と経験を有する看護師が、医療機関への受診や家庭での対処方法についてアドバイスを行っています。

ご利用
ください

山形県救急電話相談

相談日●毎日 相談時間●19時～22時(3時間)

15歳未満

小児救急電話相談

プッシュ回線・
携帯電話

#8000

ダイヤル回線・
IP電話・PHS

023-633-0299



15歳以上

大人の救急電話相談

プッシュ回線・
携帯電話

#8500

ダイヤル回線・
IP電話・PHS

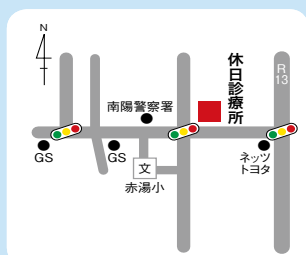
023-633-0799



近隣の休日診療所のご利用：日曜日、祝日の9時～17時の間

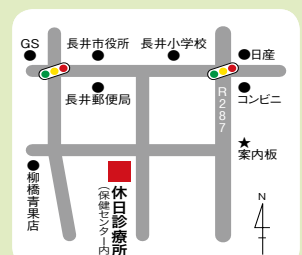
南陽東置賜休日診療所

診療日/日曜日・祝日
診療時間/午前9時から
午後5時まで
診療科目/主に内科、小児科
※受診の際は、必ず保険証を
ご持参ください。
南陽市桐塚420-7
☎0238-40-3456



長井西置賜休日診療所

診療日/日曜日・祝日
診療時間/午前9時から
午後5時まで
診療科目/内科、小児科、外科
※受診の際は、必ず保険証を
ご持参ください。
長井市保健センター内
☎0238-84-5799



地域の皆さんの御理解と御協力をお願いいたします。

公立置賜総合病院の医師をご紹介します

平成26年11月1日現在

| 診療科・主な職名 | 氏名 |
|---|-------|
| 院長(兼)救命救急センター所長 | 洪間 久 |
| 副院長(兼)輸血部長(兼)医療安全部長(兼)人間ドック室長 | 佐藤 伸二 |
| 副院長(兼)医療情報部長(兼)手術部長 | 薄場 修 |
| 副院長(兼)診療部長(外科系四)(兼)診療部長(中央診療系)(兼)泌尿器科科長 | 久保田洋子 |
| 副院長(兼)診療部長(外科系二)(兼)放射線部長 | 金城 利彦 |
| 副院長(兼)診療部長(外科系六)(兼)リハビリテーション部長 | 林 雅弘 |
| 副院長(兼)医療連携部長(兼)呼吸器外科科長 | 山田 昌弘 |
| 診療部長(内科系一) | 齋藤 孝治 |
| 消化器内科科長(兼)内視鏡室長 | 渡辺晋一郎 |
| 消化器内科医長 | 武田 忠 |
| 消化器内科医長 | 大村 清成 |
| 消化器内科医長 | 安藤 嘉章 |
| 消化器内科医長 | 高野 潤 |
| 消化器内科医師 | 堀内 素平 |
| 消化器内科医師 | 渡邊 祐介 |
| 消化器内科医師 | 和田 佳子 |
| 消化器内科医師 | 勝見修一郎 |
| 消化器内科医師 | 小野里祐介 |
| 診療部長(内科系四)(兼)循環器内科科長 | 池野栄一郎 |
| 循環器内科医長(兼)臨床工学室長 | 山内 聡 |
| 循環器内科医長 | 北原 辰郎 |
| 循環器内科医長 | 新関 武史 |
| 循環器内科医長 | 石野 光則 |
| 診療部長(内科系三)(兼)内科(呼吸器)科長 | 稲毛 稔 |
| 内科(呼吸器)医長 | 平間 紀行 |
| 内科(呼吸器)医長 | 小坂 太祐 |
| 内科(呼吸器)医師 | 中野 寛之 |
| 内科(腎臓・透析)医長(兼)人工透析室長 | 星川 仁人 |
| 内科(腎臓・透析)医師 | 工藤 光介 |
| 内科(血液)科長 | 山本 雅一 |
| 診療部長(内科系二)(兼)内科(糖尿病・内分泌)科長 | 江口 英行 |
| 内科(糖尿病・内分泌)医師 | 伊藤 正裕 |
| 内科(糖尿病・内分泌)医師 | 安日 智 |
| 神経内科科長 | 栗村 正之 |
| 小児科科長 | 仙道 大 |
| 小児科医長 | 豊田健太郎 |
| 小児科医長 | 古山 政幸 |
| 精神科科長 | 赤羽 隆樹 |
| 精神科医長 | 鈴木 春芳 |
| 精神科医師 | 佐藤 洋三 |
| 精神科医師 | 塙 歆 |
| 救命救急センター長 | 岩谷 昭美 |
| 救命救急副センター長(兼)集中治療室長 | 佐藤 光弥 |
| 救命救急センター医長 | 松永 純 |
| 救命救急センター医長 | 久下 淳史 |

| 診療科・主な職名 | 氏名 |
|---------------------|-------|
| 診療部長(外科系一) | 小澤孝一郎 |
| 外科科長 | 東 敬之 |
| 外科医長 | 水谷 雅臣 |
| 外科医長 | 竹下 明子 |
| 外科医長 | 森谷 敏幸 |
| 外科医長 | 間瀬 健次 |
| 外科医師 | 横山 森良 |
| 外科医師 | 鈴木 武文 |
| 心臓血管外科科長 | 外山 秀司 |
| 整形外科科長 | 大楽 勝之 |
| 整形外科医長 | 松木 宏史 |
| 整形外科医長 | 渡邊 忠良 |
| 整形外科医長 | 山川 淳一 |
| 整形外科医師 | 岡田宗一郎 |
| 整形外科医師 | 結城 北斗 |
| 整形外科医師 | 和根崎禎大 |
| 脳神経外科科長 | 土谷 大輔 |
| 脳神経外科医師 | 渡辺 茂樹 |
| 診療部長(外科系五)(兼)産婦人科科長 | 手塚 尚広 |
| 産婦人科医長 | 高木 潤一 |
| 産婦人科医師 | 松尾 幸城 |
| 産婦人科医師 | 丸山 真弓 |
| 診療部長(外科系三)(兼)眼科科長 | 高村 浩 |
| 耳鼻咽喉科科長 | 櫻井 真一 |
| 耳鼻咽喉科医長 | 和氣 貴祥 |
| 耳鼻咽喉科医師 | 倉上 和也 |
| 泌尿器科医長 | 槻木 真明 |
| 泌尿器科医師 | 長浦 主税 |
| 歯科口腔外科科長 | 小林 武仁 |
| 歯科口腔外科歯科医師 | 助川 香織 |
| 歯科口腔外科歯科医師 | 瀬川 京 |
| 形成外科医師 | 菊地 憲明 |
| 形成外科医師 | 池山 有子 |
| 麻酔科科長 | 山口 勝也 |
| 麻酔科医長 | 那須 郁子 |
| 麻酔科医師 | 木村 相樹 |
| 放射線科科長 | 伊東 一志 |
| 放射線科医長 | 菅原 千智 |
| 放射線科医師 | 進藤 秀樹 |
| 臨床検査部長 | 布山 繁美 |
| 人間ドック室医師 | 藤岡 美穂 |

☆各科の曜日ごとの診療担当医師は当院ホームページに掲載しております。トップページ⇒「入院・外来等のご案内」⇒「外来担当医師一覧」

発行 置賜広域病院組合／公立置賜総合病院
編集 広報委員会(事務局:総務企画課 企画担当) ☎0238-46-5000

ホームページアドレス
<http://www.okitama-hp.or.jp/>